

## ■ BL 研究のための文献リスト ■

\*2019年までの「BL」作品や作者、読者などを扱った  
日本語文献一覧（対談は網羅されていません）。

\*50音順

- 相田美穂, 2013, 「期待される腐女子像からのエクソダス——『可能性』の読み込み／誤読に関する一考察」『広島修大論集』54(1): 207-20。
- , 2014, 「上書きされる現実——2002年から2011年における腐女子キャラクターの変遷を事例として」『広島国際研究』20: 105-18。
- , 2014, 「妄想することと、描くこと。人に見せること——男性キャラクター同士の恋愛を通じた楽しみ」『女性学年報』35: 92-110。
- , 2015, 「やおいをめぐる言説の構成」『広島修大論集』56(1): 61-74。
- 東園子, 2003, 「近代社会における異性愛形式の展開——恋愛の規範化と『宝塚』・『やおい』」『社会学雑誌』20: 204-17。
- , 2009, 「女性のホモソーシャルな欲望の行方——二次創作『やおい』についての一考察」大野道邦・小川伸彦編『文化の社会学——記憶・メディア・身体』文理閣。
- , 2010, 「妄想の共同体——『やおい』コミュニティにおける恋愛コードの機能」東浩紀・北田暁大編『思想地図』NHK出版, 249-74。
- , 2012, 「私のための物語 やおい再考」『ユリイカ 特集 BL オン・ザ・ラン!』44(15): 172-7。
- , 2013, 「紙の手ごたえ——女性たちの同人活動におけるメディアの機能分化」『マス・コミュニケーション研究』83: 31-45。
- , 2014, 「『好きなもの』研究の方法論」『都市文化研究』16: 117-9。
- , 2015, 『宝塚・やおい, 愛の読み替え——女性とポピュラーカルチャーの社会学』新曜社。
- , 2016, 「2.5次元ファンの舞台の見方——宝塚ファンとの比較から」『美術手帖』68(1038): 82-5。
- 足立典子, 2002, 「これは仮定だけど, そんなときはぼく——少女まんがと同性愛」ジャクリーヌ・ベルント編『マン美研——マンガの美/学的な次元への接近』醍醐書房。
- 熱田敬子, 2012, 「『BL』排除からみえた差別と性の享受の萎縮——堺市立図書館での『BL』本排除事件」『ユリイカ 特集 BL オン・ザ・ラン!』44(15): 184-91。
- 阿島俊, 2004, 『漫画同人誌エトセトラ'82~'98——状況論とレビューで読むおたく史』久保書店。
- 荒俣宏, 1994, (『漫画と人生——荒俣宏コレクション』集英社 (集英社文庫)。
- 有満麻美子, 1991, 「欲望することへの欲望——レディース・コミックのアレゴリー」『imago』6(4): 152-61。
- 石川優, 2009, 「やおい論についての批判的考察と今日的課題」『人文研究』60: 221-36。
- , 2013, 「マンガ研究の方法論的検討——パラテキストという視点」『マンガ研究やろうぜ!!』4: 15-9。
- , 2014, 「『異端』としての『やおい』研究」『都市文化研究』16: 120-2。
- , 2017, 「関係性のテキスト——『やおい』における生成の動態性」『人文研究』10: 3-20。
- , 2017, 「『やおい』における物語の生成——物語世界と筋という視点から」『マンガ研究』

- 23: 29-48。
- 石川優, 東園子, 西原麻里, 杉本=バウエンス・ジェシカ, 木下衆, 2014, 「やおい/BLを研究する——方法論とディシプリン」『都市文化研究』16: 116-25。
- 石田沙織, 2016, 「家庭内における腐女子の規範意識——『腐女子であること』の受容をめぐる考察から」『家族研究年報』41(0): 59-76。
- 石田仁, 2007, 「ゲイに共感する女性たち」『ユリイカ 総特集 腐女子マンガ大系』39(7): 47-55。
- , 2007, 「『ほっといてください』という表明をめぐる——やおい/BLの自律性と表象の横奪」『ユリイカ 総特集 BLスタディーズ』39(16): 114-23。
- , 2012, 「数字で見る JUNE とさぶ」『ユリイカ 特集 BL オン・ザ・ラン!』44(15): 159-71。
- , 2019, 『初めて学ぶ LGBT——基礎からトレンドまで』ナツメ社。
- , 2019, 「東京・新宿のゲイ・シーンにおける出会いと『多様性』——トレンドな出会いの空間に着目して」ジェームズ・ウェルカー編著『BLが開く扉——変容するアジアのセクシュアリティとジェンダー』青土社。
- 石田美紀, 2006, 「70年代末少女大衆文化における『耽美』の形成とその役割——コミック・文芸雑誌『June』を中心に」『比較文化研究』74: 89-97。
- , 2007, 「響きと吐息——〈声のBL〉という申し開きのできない快樂について」『ユリイカ 総特集 BLスタディーズ』39(16): 190-6。
- , 2008, 『密やかな教育——〈やおい・ボーイズラブ〉前史』洛北出版。
- , 2012, 「成熟と自由——遠い隣人から省みるやおい・BLの現在」『ユリイカ 特集 BL オン・ザ・ラン!』44(15): 126-30。
- 石原寛子, 2012, 「『二次創作』はなぜ生まれ、何を生むのか——情報技術の普及がもたらす創作概念の変化」『大阪大学日本学報』31: 133-62。
- 伊藤剛, 1999, 「男性のための〈試験に出る〉やおい講座 第一回 70年代篇」『コミック・ゴン!』4, ミリオン出版。
- , 1999, 「男性のための〈試験に出る〉やおい講座 第二回 80年代初頭『アニパロ時代』篇」『コミック・ゴン!』5, ミリオン出版。
- , 2007, 「801ちゃんのとなりで」『ユリイカ 総特集 腐女子マンガ大系』39(7): 98-105。
- , 2007, 『マンガは変わる——“マンガ語り”から“マンガ論”へ』青土社。
- 岩井阿礼, 1995, 「性表現の主体としての女性——女性向け男性同性愛者ファンタジーに見られる性役割葛藤と性役割多元化の試み」『Sociology today』お茶の水社会学研究会, 6: 1-12。
- 岩川ありさ, 2015, 「pixivという未来——『クィア・アダプテーション』としての二次創作」押野武志編著『日本サブカルチャーを読む——銀河鉄道の夜から AKB48 まで』北海道大学出版会。
- , 2018, 「名前の贈り物——『いとしの猫っ毛』シリーズをめぐる」『ユリイカ 総特集 雲田はるこ』50(16): 219-25。
- 岩崎彩香, 2005, 「現代女性の社会適応戦略——〈やおい〉文化の社会学的考察」『関西大学大学院 人間科学』63: 47-72。
- , 2006, 「『現代女性の社会的適応戦略』(2)——〈やおい〉文化の社会学的考察」『関西大学大学院 人間科学』64: 65-88。
- , 2015, 「〈やおい〉文化とは何だったのか——一九九〇年代のBL作品分析を通じて」岩見和彦編著『続・青春の変貌』関西大学出版部。

- 上田麻由子, 2012, 「ボーイズ・ミュージカル, 手にとって触れられるガラスのなかの『青春』  
『ユリイカ 特集 BL オン・ザ・ラン!』44(15): 131-7。
- 上野千鶴子, 1989, 「ジェンダーレス・ワールドの〈愛〉の実験——少年愛マンガをめぐって」『都市』2, 都市デザイン研究所。
- , 1989, 「ロリコンとやおい族に未来はあるか!?——90年代のセックス・レボリューション」『別冊宝島 104号 おたくの本』宝島社。
- , 1998, 『発情装置——エロスのシナリオ』筑摩書房(2015, 『発情装置 新版』岩波現代文庫)。
- , 2007, 「腐女子とはだれか?——サブカル・ジェンダー分析のための覚え書き」『ユリイカ 総特集 腐女子マンガ大系』39(7): 30-6。
- ウエルカー, ジェームズ, 2019, 「ボーイズラブ (BL) とそのアジアにおける変容・変貌・変化」  
ジェームズ・ウエルカー編著『BLが開く扉——変容するアジアのセクシュアリティとジェンダー』青土社。
- ウエルカー, ジェームズ編著, 2019, 『BLが開く扉——変容するアジアのセクシュアリティとジェンダー』青土社。
- 打田素之, 2019, 「BL ジャンルの根本問題: なぜ, 男性同性愛なのか?——変身願望と対象関係論の視点から」『神戸松蔭女子学院大学研究紀要 文学部篇』8: 31-42。
- 宇利綾香, 2019, 「『この BL がやばい!』を対象にこの十年の BL 漫画の変化を辿る——カップルと社会の接続」2018年度明治大学藤本由香里ゼミナール卒業研究。
- 大塚英志, 1989, 『少女民俗学——世紀末の神話をつむぐ「巫女の末裔」』光文社(1997, 光文社文庫)。
- , 2004, 『サブカルチャー文学論』朝日新聞社(2007, 朝日文庫)。
- 大戸朋子, 2014, 「腐女子コミュニティにおける匿名性と実名性」『年報「少女」文化研究』6: 69-75。
- 大戸朋子・伊藤泰信, 2010, 「同一嗜好の女子たちをめぐるメディア・表象・実践」『九州人類学会報』37: 69-87。
- , 2019, 「二次創作コミュニティにおける『愛』をめぐる闘争と調停」『コンタクト・ゾーン』11: 207-32。
- 大橋稔, 2018, 「ボーイズラブによって攪乱/固定化されるジェンダー構造——フェミニズムの視点から考えるボーイズラブの可能性」『城西人文研究』33: 69-100。
- 岡部大介, 2008, 「腐女子のアイデンティティ・ゲーム——アイデンティティの可視/不可視をめぐって」『認知科学』15(4): 671-81。
- 小川直美, 2005, 「少女漫画の反逆——やおいへの/やおいからの視線」渡辺憲司編『国文学解釈と鑑賞 別冊 江戸時代とサブカルチャー』至文堂。
- 荻田真理子, 2010, 「『やおい』愛好者は何を欲望するか——女性向け二次創作を中心に」『大阪大学日本学報』29: 209-40。
- 柿沼瑛子, 1995, 「“愛”を創りだす少女マンガ家達——我が偏愛的少年愛マンガ論」『imago 特集 少女マンガ』1995年4月号。
- 柿沼瑛子・栗原知代編著, 1993, 『耽美小説・ゲイ文学ブックガイド』白夜書房。
- 笠間千浪, 2001, 「〈解釈共同体〉としての『やおい』サブカルチャー——消費社会の高度化と女性たちのオルタナティブな語り」三宅義子編『日本社会とジェンダー』叢書現代の経済・社会とジェンダー第3巻, 明石書店。

- , 2001, 「ジェンダー秩序による〈セクシュアリティ〉編成とフェミニズム言説——その限界と可能性の分岐点」 神奈川大学人文学研究所編『ジェンダー・ポリティクスのゆくえ』勁草書房。
- 加藤秀一, 2009, 「ジェンダー論の練習問題 (第 46 回) やおい/BL 入門のために (1)」『解放教育』39(2): 74-6。
- , 2009, 「ジェンダー論の練習問題 (第 47 回) やおい/BL 入門のために (2)」『解放教育』39(3): 92-4。
- , 2009, 「ジェンダー論の練習問題 (第 48 回) やおい/BL 入門のために (3)」『解放教育』39(4): 97-9。
- , 2009, 「ジェンダー論の練習問題 (第 49 回) やおい/BL 入門のために (4)」『解放教育』39(5): 66-8。
- 金巻ともこ, 2005, 「女子オタ 30 年戦争」『ユリイカ 特集 文化系女子カタログ』37(12): 144-53。
- , 2007, 「この世に残された最後の楽園はボーイズラブだぜ, ベイベ」神谷巻尾編『リビドー・ガールズ——女子とエロ』パルコ。
- , 2007, 「腐女子業界の今とわたくしとイスカリオテのユダ」『ユリイカ 総特集腐女子マンガ大系』39(7): 41-6。
- 可児洋介, 2013, 「『24 年組』をめぐる二つの運動体——増山法恵の『大泉サロン』と迷宮の『マニア運動体』」『マンガ研究』19: 29-54。
- 金田淳子, 2006, 「ヤオイ・イズ・アライブ——わかりたいあなたのための, やおいマンガ・マップ」『ユリイカ 特集 マンガ批評の最前線』38(1): 166-78。
- , 2007, 「マンガ同人誌 解釈共同体のポリティクス」佐藤健二・吉見俊哉編『文化の社会学』有斐閣。
- , 2007, 「やおい論, 明日のためにその 1. ——やおい論の批判的検討」『波状言論』20
- , 2007, 「やおい論, 明日のためにその 2.」『ユリイカ 総特集 BL スタディーズ』39(16): 48-54。
- , 2018, 「つごうのよくないマンガ——ボーイズラブマンガにおける雲田はるこの位置と批評性」『ユリイカ 特集 雲田はるこ』50(16): 189-97。
- 金田淳子・永久保陽子, 2012, 「対談 BL の浸透と拡散をめぐって」『ユリイカ 特集 BL オン・ザ・ラン!』44(15): 145-58。
- 香山リカ, 2007, 「腐女子の自我は煙と消えた」『ユリイカ 総特集 腐女子マンガ大系』39(7): 37-40。
- 川原和子, 2007, 「やおい心をくすぐるもの——妄想という名のプチ創作」『ユリイカ 総特集 腐女子マンガ大系』39(7): 132-7。
- カン=グエン・ビュンジュ・ドレッジ, 2019, 「ゲイ『ファン』の『ファン』——創造と存在のはざまから立ち上がるタイのボーイズラブ」ジェームズ・ウェルカー編著『BL が開く扉——変容するアジアのセクシュアリティとジェンダー』青土社。
- ギタ・プラムディタ・プラメスワリ, 2019, 「不調和な情熱——インドネシアにおけるボーイズラブ・ファンのアイデンティティ交渉と LGBT に向けるまなざし」ジェームズ・ウェルカー編著『BL が開く扉——変容するアジアのセクシュアリティとジェンダー』青土社。
- 北田暁大, 2017, 「動物たちの楽園と妄想の共同体——オタク文化受容様式とジェンダー」北田暁大+解体研編『社会にとって趣味とは何か——文化社会学の方法規準』河出書房新社。

- 北村夏実, 2010, 「腐女子を潜在化させるものは何か——オタク集団内のホモソーシャリティからみる彼女たちの規範」『女性学年報』31: 32-55。
- 金孝眞, 2013, 「『他者』としてのヤオイ——1990年代における韓国同人文化の変容をめぐって」ジャクリーヌ・ベルント, 山中千恵, 任蕙貞編『日韓漫画研究 国際マンガ研究 第3巻』京都精華大学国際マンガ研究センター。
- , 2015, 「同人誌文化のグローバリゼーションと韓国の女性同人——2000年代以降を中心に」大城房美編著『女性マンガ研究——欧米・日本・アジアをつなぐMANGA』青弓社。
- , 2019, 「フェミニズムの時代, BLの意味を問い直す——二〇一〇年代韓国のインターネットにおける脱BL言説をめぐって」ジェームズ・ウェルカー編著『BLが開く扉——変容するアジアのセクシュアリティとジェンダー』青土社。
- 桐生操, 2012, 『世界ボーイズラブ大全——「耽美」と「少年愛」と「悦楽」の罣』文藝春秋(文春文庫)。
- 金城克哉, 2012, 「同一テーマに関する二つのコミック作品群の比較計量分析——BLコミックとゲイコミック」『言語文化研究紀要』21: 1-20。
- 久保(川合)南海子, 2019, 「異投射・虚投射の発生と共有——腐女子の妄想と二次創作を通じて」『認知科学』26(1): 40-51。
- 栗原知代, 1993, 「概論 1 耽美小説とはなにか」柿沼瑛子・栗原知代編『耽美小説・ゲイ文学ブックガイド』白夜書房。
- , 1993, 「概論 2 同人誌をめぐる考察」柿沼瑛子・栗原知代『耽美小説・ゲイ文学ブックガイド』白夜書房。
- , 1994, 「男同士の愛に少女たちが仮託するもの」『創』創出版, 1994年3月号。
- ケタ, 2012, 「ネット上にたゆたう〈腐女子〉批評の場と言葉」『ユリイカ 特集 BL オン・ザ・ラン!』44(15): 196-9。
- 小谷真理, 1994, 『女性状無意識〈テクノガイネーシス〉——女性SF論序説』勁草書房。
- , 2007, 「腐女子同士の絆——C文学とやおい的な欲望」『ユリイカ 総特集 BL スタディーズ』39(16): 26-35。
- コミックマーケット準備会編, 2005, 『コミックマーケット30's ファイル——1975-2005』コミケット。
- , 2015, 『コミックマーケット40周年史』コミケット。
- 齋藤朝子パトリシア, 2019, 「神話からゲーム, そしてホモエロティック・フィクションへ——中国, 日本と台湾の『真・三國無双』BL同人誌」ジェームズ・ウェルカー編著『BLが開く扉——変容するアジアのセクシュアリティとジェンダー』青土社。
- 齋藤環, 2003, 『博士の奇妙な思春期』日本評論社。
- , 2003, 「『萌え』の象徴的身分」東浩紀編著『網状言論F改』青土社。
- , 2009, 『関係する女 所有する男』講談社(講談社現代新書)。
- , 2009, 『関係の化学としての文学』新潮社。
- 榊原史保美, 1998, 『やおい幻論——「やおい」から見えたもの』夏目書房。
- 佐川俊彦, 2010, 「『JUNE』創刊のあとさき(上)」『ビランジ』同志社大学社会学部竹内長武研究室, 26: 152-69。
- 笹倉尚子, 2008, 「腐女子心性と関係を生きること」『京都大学大学院教育学研究科付属臨床教育実践センター紀要』12: 79-91。
- 佐藤雅樹, 1992, 「ヤオイなんて死んでしまえばいい」『やおい論争合本I』CHOISIR。

- , 1994, 「少女マンガにダイエットを」『やおい論争合本Ⅱ～Ⅲ』CHOISIR。
- , 1996, 「少女マンガとホモフォビア」『クィア・スタディーズ 96』七つ森書館。
- 里見直紀・安田かほる・筆谷芳行・市川孝一, 2008, 「マンガ同人誌の保存と利活用に向けて——コミックマーケットの事例から」『カレントアウェアネス』(297): 9-13。
- サンキュータツオ, 2012, 「純愛の証人としてのBL——BLにハマったある男の物語」『ユリイカ 特集 BL オン・ザ・ラン!』44(15): 72-6。
- 椎名ゆかり, 2007, 「アメリカでのBLマンガ人気」『ユリイカ 総特集 BL スタディーズ』39(16): 180-9。
- 椎野庸一, 2014, 「1980年代のコミックマーケットカタログにおけるカップリング表記の変遷 (BL・やおい)」『マンガ研究』日本マンガ学会, 20: 74-95。
- 詩文奈, 2012, 「マイBL ニューベルバーグ派」『ユリイカ 特集 BL オン・ザ・ラン!』44(15): 95-9。
- 霜月たかなか, 2008, 『コミックマーケット創世記』朝日新聞社 (朝日選書)。
- 霜村史織, 2006, 「女性向け二次創作に見られる自己表現」『女性学年報』27: 153-75。
- シュウ・ヤンルイ, ヤン・リン, 2019, 「BLとスラッシュのはざままで——現代中国の『耽美』フィクション, 文化越境的媒介, 変化するジェンダー規範」ジェームズ・ウェルカー編著『BLが開く扉——変容するアジアのセクシュアリティとジェンダー』青土社。
- 白石智子, 2015, 「大学生は発達過程においてどのようなジャンルのマンガと接触してきたのか? ——予備的調査結果の報告」『マンガ研究』日本マンガ学会, 21: 106-20。
- 白峰彩子, 2012, 「『黄昏詞華館』のころ」『ユリイカ 特集 BL オン・ザ・ラン!』44(15): 114-9。
- 杉浦由美子, 2006, 『オタク女子研究——腐女子思想大系』原書房。
- , 2006, 『腐女子化する世界——東池袋のオタク女子たち』中央公論新社 (中公新書ラクレ)。
- 杉本バウエンス・ジェシカ, 2013, 「社会批評との関係から見たグローバルな『腐女子』漫画文化」ジャクリーヌ・ベルント, 山中千恵, 任蕙貞編『日韓漫画研究』国際マンガ研究第3巻, 京都精華大学国際マンガ研究センター。
- , 2014, 「フランスのマンガ市場と腐女子」ジャクリーヌ・ベルント編『日本マンガと「日本」——海外の諸コミックス文化を下敷きに』国際マンガ研究第4巻, 京都精華大学国際マンガ研究センター。
- , 2015, 「アメリカのコミックス・アーティストとマンガ——コリーン・ドランの作品考察」大城房美編著『女性マンガ研究——欧米・日本・アジアをつなぐMANGA』青弓社。
- 千田有紀, 2012, 「貴腐人, もしくは汚超腐人の密かな愉しみ」『ユリイカ 特集 BL オン・ザ・ラン!』44(15): 64-71。
- 宣政佑, 2012, 「韓国のBL・やおい文化の流れ」『ユリイカ 特集 BL オン・ザ・ラン!』44(15): 209-15。
- , 2018, 「『ファンフィク』文化がK-POPシーンにもたらしたこと」『ユリイカ 特集 K-POP スタディーズ』50(15): 223-7。
- 高城響, 1994, 「『やおい』にむらがる少女たち」『朝日ワンテーママガジン 36 ジェンダー・コレクション』朝日新聞社出版局, 35-9。
- 高橋すみれ, 2005, 「〈やおい化〉する視線, その戦略にむけて——『DEATH NOTE』同人漫画を例に」『女性学年報』26: 20-40。

- 竹宮恵子, 2001, 『竹宮恵子のマンガ教室』 筑摩書房。
- , 2016, 『少年の名はジルベール』 小学館 (2019, 小学館文庫)。
- 竹宮恵子・原田マハ・石田美紀・寺山偏陸・さいとうちほ・勝谷誠彦, 2016, 『竹宮恵子カレイドスコープ』 新潮社。
- 谷川たまゑ, 1989, 「女性の男色嗜好について——その意味と深層」『女性学年報』(10): 195-206。
- , 1992, 「中島梓のおたく論を巡って——フェミニズム的言説とフェミニズム」『女性学年報』(13): 133-8。
- , 1993, 「女性の少年愛嗜好について II——識者の見解と, フェミニズムにおける可能性」『女性学年報』(14): 66-79。
- , 1995, 「女性の少年愛嗜好について III——『やおい論争』から」『女性学年報』(16): 36-51。
- 張瑋容, 2012, 「『執事喫茶』における『BL的妄想』とセクシュアリティ——台湾人腐女子の『妄想実践』事例から」『人間文化創成科学論叢』15: 291-9。
- 天童渉, 1994, 「実践やおい心理学」『コミケ作家ガイド』 太田出版。
- 長池一美, 2015, 「グローバル化する BL 研究——日本 BL 研究からトランスナショナル BL 研究へ」大城房美編著『女性マンガ研究——欧米・日本・アジアをつなぐ MANGA』 青弓社。
- , 2019, 「『腐男子になる』欲望——東アジアにおける異性愛男性 BL ファン比較研究」ジェームズ・ウェルカー編著『BL が開く扉——変容するアジアのセクシュアリティとジェンダー』 青土社, 77-96。
- 永久保陽子, 1999, 「〈やおい小説〉論 序論」『専修国文』65: 77-111。
- , 2000, 「〈やおい小説〉におけるセクシャリティの位相」『藤女子大学国文学雑誌』64: 122-34。
- , 2003, 「『やおい小説』におけるエロス表現について」『専修国文』73: 91-111。
- , 2005, 『やおい小説論——女性のためのエロス表現』 専修大学出版局。
- ながくぼようこ, 2007, 「女性たちの“腐った夢” = 〈やおい小説〉——〈やおい小説〉の魅力とその問題性」『ユリイカ 総特集 腐女子マンガ大系』39(7): 142-7。
- , 2007, 「『学園もの』よ永遠なれ……——やおい (BL) 小説のジャンルの一考察」『ユリイカ 総特集 BL スタディーズ』39(16): 170-5。
- 中島梓, 1984, 『美少年学入門』 新書館 (1998, 増補新版, ちくま文庫)。
- , 1991, 『コミュニケーション不全症候群』筑摩書房 (電子書籍版: 藤本由香里解説, 1997, 天狼プロダクション発行, ボイジャー・プレス発売)。
- , 1997, 『新版 小説道場 4』 光風社出版。
- , 1998, 『タナトスの子供たち——過剰適応の生態学』 筑摩書房 (2005, ちくま文庫)。
- 中野冬美, 1994, 「やおい表現と差別——女のためのポルノグラフィーをときほぐす」『女性ライフサイクル研究』4: 130-8。
- 永山薫, 2006, 『エロマンガ・スタディーズ——「快樂装置」としての漫画入門』 イースト・プレス (2014, 増補, ちくま文庫)。
- 梨本敬法, 1989, 「やおい族 美少年ホモマンガに群がる少女たち」『別冊宝島 104号 おたくの本』 宝島社。
- 名藤多香子, 2007, 「『二次創作』活動とそのネットワークについて」 玉川博章・名藤多香子・小林義寛・岡井崇之・東園子・辻泉『それぞれのファン研究——I am a fan』 風塵社。
- 西原麻里, 2009, 「『ボーイズラブ』のキャラクター造形に関する一考察」『メディア学』24: 16-

- 36。
- , 2010, 「マスメディアが映し出す〈やおい〉の姿——言説分析による」『論叢クィア』3: 62-85。
- , 2011, 「『プレ・ボーイズラブ』マンガの表現と社会的機能」『マンガ研究』17: 120-3。
- , 2012, 「〈家族〉を目指す BL マンガ」『女子学研究』2: 24-39。
- , 2013, 「女性向け同性愛マンガの表現史——1970 年から 2000 年まで」同志社大学大学院社会学研究科博士学位論文。
- , 2014, 「現代の男性アイドル像と〈恋愛〉/〈絆〉の様相——雑誌分析を通じて」日本マス・コミュニケーション学会・2014 年度春季研究発表会・研究発表論文, 日本マス・コミュニケーション学会。
- , 2014, 「〈美少年〉の系譜——〈男×男〉マンガにおけるキャラクターの変遷」『二十世紀研究』15: 1-25。
- , 2016, 「少年愛——美少年たちの愛の物語」竹内オサム・西原麻里編著『マンガ文化 55 のキーワード』ミネルヴァ書房。
- , 2016, 「やおい・ボーイズラブ——純愛とエンターテインメントの一大ジャンル」竹内オサム・西原麻里編著『マンガ文化 55 のキーワード』ミネルヴァ書房。
- , 2017, 「ニコイチになれない涙——〈他人×他人〉の関係性」『ユリイカ 総特集志村貴子』49(20): 227-35。
- , 2018, 「いとしの〈受〉っ子——雲はる BL における同軸リバと男性のかわいらしさについて」『ユリイカ 総特集 雲田はるこ』50(16): 209-18。
- , 2019, 「ジャニーズの関係はホモソーシャルか——〈絆〉の表現が揺るがすもの」『ユリイカ 総特集 日本の男性アイドル』51(18): 95-104。
- , 2019, 「BL ゲームの歴史と構造——ゲームならではの BL の楽しみ」松井広志・井口貴紀・大石真澄・秦美香子編『多元化するゲーム文化と社会』ニューゲームズオーダー。
- 西村マリ, 2001, 『アニパロとヤオイ』太田出版。
- , 2015, 『BL カルチャー論——ボーイズラブがわかる本』青弓社。
- 20 周年資料集編集部, 1996, 『コミックマーケット 20 周年記念資料集』コミックマーケット準備会。
- 日本性教育協会編, 2009, 『腐女子文化のセクシュアリティ (性科学ハンドブック 12)』日本性教育協会。
- 日本図書館協会図書館の自由委員会, 2010, 「堺市立図書館における BL (ボーイズラブ) 図書の規制について」『図書館の自由』別冊。
- 荷宮和子, 1994, 『少女マンガの愛のゆくえ』光栄。
- , 1995, 『おたく少女の経済学』廣済堂出版。
- 二村ヒトシ・金田淳子・岡田育, 2015, 『オトコのカラダはキモチいい』KADOKAWA (2017, 角川文庫)。
- 野阿梓, 1993, 「当世耽美小説積義」『図書新聞』2142 号。
- , 1995, 「極私的『やおい』閑談」『imago 特集 少女マンガ』1995 年 4 月号。
- , 2007, 「極私的『やおい』閑談 R」『ユリイカ 総特集 BL スタディーズ』39(16): 71-81。
- 野火ノビタ, 2003, 『大人は判ってくれない——野火ノビタ批評集成』日本評論社。
- 野村総合研究所オタク市場予測チーム, 2005, 『オタク市場の研究』東洋経済新報社。



- 橋本治, 1979, 『花咲く乙女たちのキンピラゴボウ』 北栄社。
- 橋本みさき・大岩敦子・山田綾・天野稔子, 2016, 「男性同性愛マンガの変化と現在(第2報) — 『やおい』・『BL』と『リアル系男性同性愛マンガ』」『愛知教育大学家政教育講座研究紀要』 45: 35-46。
- 波津彬子・佐川俊彦・竹宮恵子, 2019, 「トークイベント 『JUNE』 からやおいまで」『京都精華大学国際マンガ研究センター年次報告書 2018 年度』。
- 服部真一郎, 1998, 『『コミックマーケット・カタログ』でわかるサークル・ジャンルの変遷』別冊宝島編集部編『別冊宝島 私をコミケにつれてって!』宝島社, 358: 26-39。
- 馬場禮子, 1995, 「なぜ少女マンガに少年愛が描かれるか?」『大航海』7: 84-90。
- , 1997, 「少女マンガに見る男性像」『大航海』17: 27-32。
- 速水筒, 2005, 「ひとでなしのゲーム」『ユリイカ 特集 文化系女子カタログ』37(12): 172-7。
- , 2007, 「PKD のマリリン・モンロー」『ユリイカ 総特集 腐女子マンガ大系』39(7): 138-41。
- 平島奈津子, 1995, 「やおい少女の青春——やおい漫画を描く心理」『imago 特集 少女マンガ』4月号。
- 福田里香, 2012, 「竹宮恵子の私信まんがコラムと BL キタセクスアリス」『ユリイカ 特集 BL オン・ザ・ラン!』44(15): 108-13。
- 藤本純子, 2001, 「女性の『性』をめぐる眼差しの行方——少女マンガとしての"男性同性愛作品"の変容を手がかりに」『日本学報』(20): 133-52。
- , 2001, 「『少年』から見る虚構世界——少女漫画における男性同性愛作品の変容を通して」『現代風俗 2001』現代風俗研究会。
- , 2003, 「〈男性同士〉という快樂——「ボーイズ・ラブ」の性的表現をめぐる一考察」『文化の語りと実践, そして批評』文化/批評編集委員会。
- , 2003, 「『ボーイズラブ』小説の変化と現在——角川ルビー文庫(1992~1995・2000~2003) 作品の比較分析から」『待兼山論叢』37: 19-52。
- , 2007, 「女が男×男を愛するとき——やおい的欲望論・試論」『ユリイカ 総特集腐女子マンガ大系』39(7): 63-8。
- , 2007, 「関係性からみる BL の現在」『ユリイカ 総特集 BL スタディーズ』39(16): 89-95。
- , 2013, 「少年愛マンガという変節点——読者という視点から見る男性同性愛モチーフの登場をめぐる一考察」茨城正治編『マンガジャンル・スタディーズ』臨川書店, 163-89。
- , 2017, 「『やおい』の男性表現にみる女性の欲望の現在——女性とフェティシズムについて語り始める前に」田中雅一編『フェティシズム研究 第3巻 侵犯する身体』京都大学学術出版会。
- 藤本由香里, 1990, 「女の両性具有, 男の半陰陽——コミックにおけるトランス・ジェンダー現象」『現代のエスプリ』277。
- , 1992, 「少女マンガにおける『少年愛』の意味」水田宗子編『ニュー・フェミニズム・レビュー②女と表現 フェミニズム批評の現在』学陽書房。
- , 1993, 「等身大の鏡——少女マンガにおける女性の自己表現」城西国際大学文化研究センター・水田宗子編『女性の自己表現と文化』田畑書店。
- , 1998, 『私の居場所はどこにあるの?——少女マンガが映す心のかたち』学陽書房(2008, 朝日文庫)。

- , 1999, 『快樂電流——女の, 欲望の, かたち』河出書房新社。
- , 2000, 『少女まんが魂——現在を映す少女まんが完全ガイド&インタビュー集』白泉社。
- , 2006, 『愛情評論——「家族」をめぐる物語』文藝春秋。
- , 2007, 「少年愛／やおい・BL——二〇〇七年現在の視点から」『ユリイカ 総特集 BL スタディーズ』39(16): 36-47。
- , 2017, 「マンガ編 『少年愛』の時代——耽美という系譜」『芸術新潮』新潮社, 68(1): 80-7。
- , 2019, 「『おっさんずラブ』という分岐点」ジェームズ・ウェルカー編著『BLが開く扉——変容するアジアのセクシュアリティとジェンダー』青土社。
- ボーディネット, トーマス, 2019, 「憧れの世界を読み取る——一時滞在の中国人ゲイに対する『希望のよりどころ』としてのBL」ジェームズ・ウェルカー編著『BLが開く扉——変容するアジアのセクシュアリティとジェンダー』青土社。
- 堀あきこ, 2009, 『欲望のコード——マンガにみるセクシュアリティの男女差』臨川書店。
- , 2010, 「ヤオイはゲイ差別か?——マンガ表現と他者化」好井裕明編著『セクシュアリティの多様性と排除』明石書店。
- , 2012, 「ジェンダーで考える教育の現在 (いま) ホモソーシャル社会と排除——BLをめぐるコンフリクトから」『ヒューマンライツ』289: 42-7。
- , 2012, 「リアルとファンタジー, その狭間で見る夢」『ユリイカ 特集 BL オン・ザ・ラン!』44(15): 178-83。
- , 2015, 「BL 図書排除事件と BL 有害図書指定からみる性規範の非対称性——女性の快楽に着目して」『マンガ研究』日本マンガ学会, 21: 80-105。
- , 2016, 「オタク, 腐女子——メディアによるイメージ」竹内オサム・西原麻里編著『マンガ文化 55 のキーワード』ミネルヴァ書房。
- , 2018, 「ホーム・スイート・ホームを超えて——雲田はるこの官能的で健やかな性表現と〈ホーム〉」『ユリイカ 総特集 雲田はるこ』50(16): 198-208。
- , 2019 「ラブ&エロの『やさしい世界』のクリアな欲望」ジェームズ・ウェルカー編著『BLが開く扉——変容するアジアのセクシュアリティとジェンダー』青土社。
- 堀あきこ・東園子・守如子・秦美香子・増田聡, 2011, 「サロン de 人権記録 公開シンポジウム——やおい／BL 研究の今を熱く語る」『人権問題研究』(11): 83-113。
- 前川直哉, 2011, 『男の絆——明治の学生からボーイズ・ラブまで』筑摩書房。
- , 2012, 「『見られる男性・見る女性』の系譜」『ユリイカ 特集 BL オン・ザ・ラン!』44(15): 138-44。
- 三浦しをん, 2006, 『シュミじゃないんだ』新書館。
- 三崎尚人, 2007, 「二〇〇七年の女性系パロディ同人誌の動向」『ユリイカ 総特集 BL スタディーズ』39(16): 176-9。
- , 2012, 「女性系パロディ同人誌の動向 2008-2012」『ユリイカ 特集 BL オン・ザ・ラン!』44(15): 200-4。
- 水間碧, 2005, 『隠喩としての少年愛——女性の少年愛嗜好という現象』創元社。
- 溝口彰子, 2000, 「ホモフォビックなホモ, 愛ゆえのレイプ, そしてクリアなレズビアン——最近のやおいテキストを分析する」『クリア・ジャパン』2: 193-211。
- , 2003, 「それは, 誰の, どんな『リアル』?——ヤオイの言説空間を整理するこころみ」イメージ&ジェンダー研究会『イメージ&ジェンダー』彩樹社, 4: 27-55。

- , 2007, 「妄想力のポテンシャル——レズビアン・フェミニスト・ジャンルとしてのヤオイ」『ユリイカ 総特集 腐女子マンガ大系』39(7): 56-62。
- , 2015, 『BL 進化論——ボーイズラブが社会を動かす』太田出版。
- , 2015, 「BLに『男の娘』がないわけ——『BL 進化論』の立場から考える」『ユリイカ 特集 男の娘』47(13): 167-75。
- , 2017, 『BL 進化論[対話篇] ——ボーイズラブが生まれる場所』宙出版。
- 水戸泉, 2012, 「腐女子が声を上げるとき」『ユリイカ 特集 BL オン・ザ・ラン!』44(15):192-5。
- 村瀬ひろみ, 2000, 『フェミニズム・サブカルチャー批評宣言』春秋社。
- , 2003, 「オタクというオーディエンス」小林直毅・毛利嘉隆編『テレビはどう見られてきたのか』せりか書房。
- 室田尚子, 1999, 「少女の性愛ファンタジー——その装置としての少女マンガとロック」北川純子編『鳴り響く〈性〉——日本のポピュラー音楽とジェンダー』勁草書房。
- , 2003, 「少女たちの居場所さがし——ヴィジュアル・ロックと少女マンガ」井上貴子・森川卓夫・室田尚子・小泉恭子『ヴィジュアル系の時代——ロック・化粧・ジェンダー』青弓社。
- メノン, ラクシュミ, 2019, 「Desi Desu——インドの都市部における性, セクシュアリティ, BL 消費」ジェームズ・ウェルカー編著『BL が開く扉——変容するアジアのセクシュアリティとジェンダー』青土社。
- 守如子, 2007, 「ハードな BL——その可能性」『ユリイカ 総特集 腐女子マンガ大系』39(7): 77-83。
- , 2010, 「やおい/BL をめぐって」遠藤知巳編『フラット・カルチャー——現代日本の社会学』せりか書房。
- , 2010, 『女はポルノを読む——女性の性欲とフェミニズム』青弓社。
- , 2012, 「マンガ表現学の視点からみたやおい」『ユリイカ 特集 BL オン・ザ・ラン!』44(15): 88-94。
- , 2017, 「中国における BL (ボーイズラブ) マンガ——マンガ表現論から読み解く日本マンガ・アニメの国際的流通」瀬地山角編『ジェンダーとセクシュアリティで見る東アジア』勁草書房。
- , 2017, 「女子が性表現の消費者になることの意味——『第 7 回青少年の性行動全国調査』データから」『関西大学社会学部紀要』49(1): 137-58。
- , 2019, 「日本の BL——その特徴に注目して」ジェームズ・ウェルカー編著『BL が開く扉——変容するアジアのセクシュアリティとジェンダー』青土社。
- 森川嘉一郎, 2007, 「数字で見る腐女子」『ユリイカ 総特集 BL スタディーズ』39(16): 124-35。
- 森本智子, 2018, 「ボーイズラブの臨界——〈木原音瀬 (このはらなりせ)〉というノイズ」『女子学研究』8: 49-58。
- 山岡重行, 2016, 『腐女子の心理学——彼女たちはなぜ BL (男性同性愛) を好むのか?』福村出版。
- , 2019, 『腐女子の心理学 2 ——彼女たちのジェンダー意識とフェミニズム』福村出版。
- 山田田鶴子, 2007, 『少女マンガにおけるホモセクシュアリティ』ワイズ出版。
- ヤマダトモコ, 2007, 「プレ『やおい・BL』という視点から——『お花畑』を準備した作品たち」『ユリイカ 総特集 腐女子マンガ大系』39(7): 123-31。

- , 2007, 「ボーイズラブとのなかなおり——したたかに生きるマンガの中のゲイキャラクターたち」『ユリイカ 総特集 BL スタディーズ』39(16): 82-8。
- 山本文子&BL サポーターズ, 2005, 『やっぱりボーイズラブが好き——完全 BL コミックガイド』太田出版。
- 吉岡優, 2016, 「腐女子のセクシュアリティとジェンダー」『関西大学大学院 人間科学』84: 45-64。
- 吉澤夏子, 2012, 『「個人的なもの」と想像力』勁草書房。
- 吉田栞・文屋敬, 2014, 「腐女子と夢女子の立ち位置の相違」『福岡女学院大学紀要 人文学部編』24: 61-81。
- よしながふみ, 2007, 『よしながふみ対談集 あのひととここだけのおしゃべり』太田出版 (2013, 白泉社文庫)。
- 吉本たいまつ, 2007, 「男もすなるボーイズラブ」『ユリイカ 総特集 腐女子マンガ大系』39(7): 106-12。
- , 2007, 「『オタク喪男』とボーイズラブ——801 ちゃんと一緒に」『ユリイカ 総特集 BL スタディーズ』39(16): 136-41。
- , 2007, 「ゲイマンガと BL マンガの越境」『ユリイカ 総特集 BL スタディーズ』39(16): 247-8。
- 米澤嘉博, 1989, 「コミケット 世界最大のマンガの祭典」『別冊宝島 おたくの本』JICC 出版局, 104: 75-88。
- , 1991, 「『やおい』の検証」『imago』1991年10月号。
- , 1997, 「コミケ文化の20年——流行を先取してきたコミックマーケット」『中央公論』1997年9月号: 276-83。
- , 1998, 「マンガと同人誌のささやかな饗宴」『別冊宝島 私をコミケにつれてって!』宝島社, 358: 40-9。
- , 2010, 『戦後エロマンガ史』青林工藝舎。
- 渡辺恒夫, 1989, 『トランス・ジェンダーの文化——異世界へ越境する知』勁草書房。
- 渡辺由美子, 1998, 「おたくのセクシュアリティ 1——ショタの研究」岡田斗司夫編『国際おたく大学』光文社。
- , 2007, 「青少年漫画から見る〈やおい〉」『ユリイカ 総特集 腐女子マンガ大系』39(7): 69-76。
- ワン・ペイティ, 2019, 「抑圧か革命か? ——同性婚合法化運動に対する台湾の BL コミュニティの反応」ジェームズ・ウェルカー編著『BL が開く扉——変容するアジアのセクシュアリティとジェンダー』青土社。

作成：守如子